Green of living

特定非営利活動法人
日本住宅管理組合協議会
マンション管理総合研究所

公益財団法人都市緑化機構
造園新領域開発共同研究会
マンションのみどり研究部会

暮らしのみどりをもっと豊かに　マンションのみどり管理と改善ガイド

暮らしのみどりを
もっと豊かに

マンションのみどり管理と改善ガイド

Green of living

管理組合の皆様へ

NPO法人日本住宅管理組合協議会 マンション管理総合研究所は、平成18年度より（公財）都市緑化機構 マンションのみどり研究部会と「マンションのみどりと管理」についての共同研究を進めております。

管理組合団体であります日住協側は、会員管理組合の植栽管理の現場、費用の合理化と住民合意形成、住民のみどりについての思いとトラブル等々の現状を、マンションのみどり研究部会側は、専門家の立場から、植栽管理の手法と費用、日常の手入れ、植栽に適した樹木や花木、病虫害や施肥等の提言を、相互に持ち寄り、マンションのみどりのあり方について共同で研究を行っています。

これらの研究成果は、これまでセミナーの開催や小冊子の作成などにより、広報誌「アメニティ」等を通じて管理組合へ情報提供してまいりました。

このたび本書を共同発行することになりましたので、管理組合の皆様へお贈りさせていただきます。貴管理組合における植栽管理にお役立ていただければ幸いです。

特定非営利活動法人　日本住宅管理組合協議会
マンション管理総合研究所

発刊によせて

私たち（公財）都市緑化機構 造園新領域開発共同研究会 マンションのみどり研究部会は、平成16年よりマンション等の集合住宅のみどりの改善をテーマとした研究活動・技術開発を行っています。現在は、マンション等の集合住宅のみどりの改善に関する総合的な取り組みを推進するとともに、マンションのみどりの改善に関するセミナーを定期的に開催しています。

平成18年よりNPO法人日本住宅管理組合協議会と共同研究を始め、平成19年には「マンションのみどりQ&A（第1版）」をPDF出版し、その後も何棟もの集合住宅のみどり環境に関しての調査・提案・改善を実施してまいりました。これまでの調査研究の蓄積を元に、このたび満を持して「暮らしのみどりをもっと豊かに～マンションのみどり管理と改善ガイド～」を共同発刊するはこびとなりました。

経年変化により皆様の周りでもいろいろな問題が発生し、お困りになられていることかと思います。ぜひ本書を皆様のお手元に置いていただき、ゆとりある、過ごしやすいみどりと住環境空間の創造に少しでもお役に立てていただけたら幸いです。

公益財団法人　都市緑化機構
造園新領域開発共同研究会
マンションのみどり研究部会

INDEX　目　次

Ⅰ．みどりとのつきあい方

1．みどりとのつきあい方と心構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2．みどりが引き起こす問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3．みどりの改善 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅱ．管理の種類とポイント

1．高木の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
2．低木の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
3．生垣の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
4．地被植物の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5．芝生の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
6．草花の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
7．施肥の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
8．灌水の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
9．病虫害の防除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
10．除草の管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
11．ベランダガーデンの土のリサイクル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
12．落ち葉・剪定枝のリサイクル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
13．植栽基盤の管理（良好な土壌作り）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
14．風雪害への対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

Ⅲ．自主管理と委託管理

1．自主管理と委託管理の仕分け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
2．場所や目的に応じた管理の考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
3．自主管理のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
4．委託管理のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

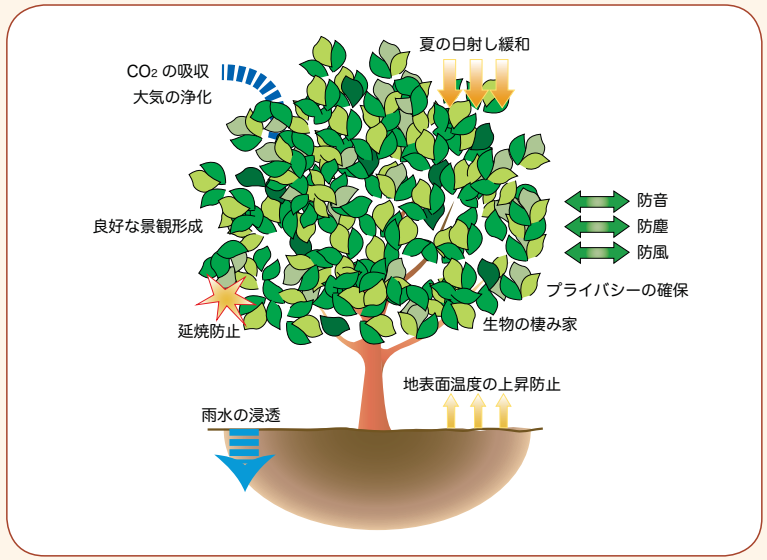
Ⅳ．みどりの改善

1．改善の流れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
2．改善の種類と方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
3．合意形成の図り方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
4．改善工事の進め方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
5．目的に応じた見積依頼先の選定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
6．トラブルを防ぐ契約の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
7．確認検査の方法とコツ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
8．助成金の活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

1. みどりとのつきあい方と心構え

1）みどりの機能と役割

日頃、何気なく接しているみどりは、大気の浄化や CO_2 の吸収、ヒートアイランドの緩和をはじめ、良好な住環境や景観づくりに効果を発揮します。



①生活面
防音、防塵、防風、プライバシー確保、
緑陰、延焼防止など

②環境面
微気候の調整、空気の清浄、生き物のすみか
ヒートアイランドの緩和、CO_2 吸収など

③景観面
アイストップ、シンボルツリー、
良好な街並みづくり

複合的に組み合わさって効果を発揮

2）植えられた場所に応じた管理

みどりは植えられた場所によって、修景や防風、目隠しなど、さまざまな役割や機能を持っています。これらの役割や機能を理解した上でみどりを管理することは、効果的な管理の実施、良好なみどり環境の維持に繋がります。

①住棟入口のみどり
・住棟の顔となるみどり　・品格を表すみどり

②住棟前のみどり
・防風、防塵　・プライバシー確保

③通り
・緑陰　・みどりの骨格づくり　・街並み、景観形成

④通路、園路
・修景、鑑賞　・立入り防止

⑤遊び場
・緑陰　・修景、遊び

⑥駐車場
・排気ガス遮蔽、遮光　・目隠し

2. みどりが引き起こす問題

大きく生長したみどりは、魅力的で良いイメージがありますが、住環境のみどりとして考えた場合、さまざまな問題を引き起こしています。

1）生長（大木化、高密化）による問題

・日照阻害、競合、管理費増加

窓を覆い日照を遮る高木

高密な植栽による競合

2）衰退（枯死、樹勢悪化）による問題

・機能低下、倒木・枝折れ

下枝の衰退による修景機能の低下

根元の腐朽による樹勢の悪化

3）管理方法による問題

・強剪定や放置による樹勢悪化、景観悪化

強剪定による樹形の悪化

放置による景観の悪化

4）安全、防犯上の問題

・見通し、根上り、倒木等

見通しを遮る生垣

強風による倒木

5）病虫害による問題

・樹勢悪化、人体への影響、管理の負担

病虫害による樹勢悪化

人体に被害を及ぼす虫害

6）植栽基盤、植栽場所の問題

・土壌、排水、日照、通風等

ガラ混じりの土壌

日当たり、水はけの悪い土壌

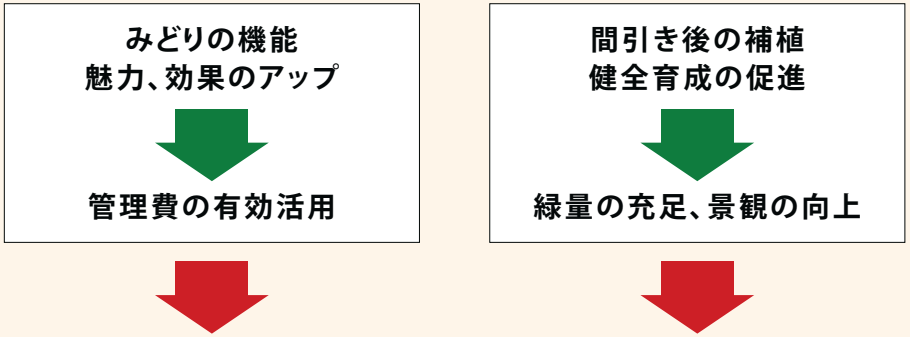
3. みどりの改善

1）みどりの改善とは

樹木の生長（大木化、過密状態など）による生活環境（日照・通風、見通し等）の悪化や強剪定などによる樹形・樹勢の悪化、管理作業や管理費の増大を改善し、「より良いみどりの状態」とするために剪定や間引き、植え替えなどを行い、管理費の有効活用を図りながら、安心・安全・快適に暮らせる住環境につなげるものです。

また、樹木の枯死や衰退による遮蔽機能（目隠し、防塵）、景観の悪化を改善し、植栽機能の回復を図るために、樹木の植え替えや樹勢回復を行うことも、改善の一つとして挙げられます。

これまで、対処療法的に強剪定等を行い、問題解決を先延ばしてきたものについて、全体的な改善計画を策定し、資金計画も含め計画的に改善を図ることで、改善の効果を上げることが可能となります。



2）みどりの改善の主な内容

■生活支障木（日照・通風、見通し悪化等）　＋　強剪定による樹形や樹勢の悪化
→間引き、樹種転換による改善
→可能であれば、適切な剪定による改善（樹冠の縮小、枝抜きなど）

■過密状態にある樹木　＋　強剪定による樹形や樹勢の悪化
→間引きによる健全育成

■管理作業、費用の増大
→樹種転換、管理方法の転換による改善

■枯死、樹勢悪化
→補植、樹種転換

過密状態にあったケヤキを間引き、健全育成と見通し（安全性）を改善した事例

●●なんでもQ＆A●●

Q１：春の彩りを保つには

A１：せっかく植えた草花を美しく保つには、ある程度の手入れが必要です。水やりは、土の表面が乾いたら、朝の涼しいうちに根本の方に優しく、たっぷりとあげてください。ただし、水のやりすぎは根腐れを起こしたり、根の吸水能力を低下させたりするので気をつけてください。
また、新しい花を次々と咲かせるために、咲き終わった花殻をこまめに摘み取る「花殻摘み」が必要です。この一手間で見た目がずっと美しくなるだけでなく、花に種がついて養分が種にいってしまったり、病虫害の発生したりする原因を取り除くことにもつながります。

1. 高木の管理

高木管理の主なものは、剪定と病虫害防除です。
剪定の基本的な時期は、落葉樹は落葉期（12 月～ 2 月）、常緑樹は初夏（6 月～ 7 月）または初秋（9 月～ 10 月）です。

剪定には、目的に応じていくつかの方法があります。

・強剪定：樹形を小さく作り直す時に行います。
樹勢が衰えて枯れることもあるので、前もって樹勢の確認が必要です。

・基本剪定：通常行われている剪定です。生長の早い樹種や数年剪定していない樹木に対して行う剪定で、樹形を整える目的で行います。

・軽剪定：生長の遅い樹種や樹勢の衰えた樹木や強剪定後の樹木に行う剪定です。からみ枝や枯枝・逆さ枝・ひこばえ※1などの不要な枝を除去します。

・支障枝剪定：建物や電線などに当たっている枝や枯枝などを除去します。

・すかし剪定：大きく育てたい樹木の将来形を考慮して剪定する場合と混みすぎた樹木を小さくしないで光や風が通るように剪定する場合に行います。

剪定で太い枝を切除した場合（特にサクラ類）には、ゆ合促進剤※2を塗布して、病原菌が侵入することを防ぎます。
病虫害防除は p19 をご覧ください。

※1　ひこばえ…樹木の幹の根元や根から発生する小枝のこと
※2　ゆ合促進剤…「ゆ合」とは剪定痕や幹や枝の傷口を樹皮で覆うことであり、ゆ合を促進する塗布剤のこと

2. 低木の管理

低木管理の主なものは、刈込と低木内の除草、施肥、病虫害防除です。

・刈込：刈込の基本的な時期は、春期（4 月～ 6 月）に刈込を行います。
花木に対しては花が咲き終わった直後が適期となります。時期を誤ると翌年に花つきが悪くなります。特にツツジ類を秋に強く刈り込むと翌年ほとんど咲かなくなりますので注意が必要です。
維持する高さや形を決めて刈り込むことで、見通しを遮るほどに大きくなったり、下枝が上がってしまうことを防ぐことができます。
刈込後の清掃時に折れ枝や引っ掛かり枝の除去、枯枝剪定や切り口の悪い枝の切り戻し、花殻の除去や摘実を行います。

・除草：ヤブガラシやヒルガオ・カラスウリなどのツル系の雑草に覆われると花つきが悪くなり、枯れることもあるので、定期的な除草が重要です。

・施肥：花つきを良くするためには寒肥（2 月頃）を行います。また、バラやボタンなどは花の後に「お礼肥」とよばれる施肥を行います。
施肥の詳細は p15、病虫害防除は p19 をそれぞれご覧ください。

3.　生垣の管理

生垣の主な管理は、刈込と病虫害防除です。

刈込の時期は低木と違い、春期（4 月～ 6 月）に刈込を行うことが多いです。これは、秋から冬に咲くキンモクセイやツバキ・サザンカなど、花が咲いた後に強く刈り込むと枯れ、軽めに刈り込むと年々生垣が大きくなってしまうためです。

生育旺盛なピラカンサやウバメガシなどは秋にも刈込を行って、形を整えることがあります。

刈込後の清掃時に折れ枝や引っ掛かり枝の除去、枯枝剪定や切り口の悪い枝の切り戻し、花殻の除去や摘実を行います。

病虫害防除・施肥・除草は低木と同様です。

刈込前

刈込後

ベニバナトキワマンサクの生垣

カナメモチの生垣

ウバメガシの生垣

4.　地被植物の管理

地被植物の主な管理は刈込と病虫害防除・施肥・除草です。

通路際のヘデラ

ほふく性の植物（ヘデラ　カナリエンシス、ハイビャクシン等）は春期（4 ～ 6 月）もしくは秋期（10 ～ 11 月）に行う場合が多いです。刈込により植栽地と通路をはっきりさせることで美観が向上します。

ほふく性以外の植物（ヤブラン、ツワブキ等）は、枯葉の除去および花殻取りを行います。枯葉の除去は美観維持のために行い、花殻は種に栄養を取られないためにも必要な管理です。

病虫害防除は主に葉を食害する害虫を対象とし、美観維持のために必要な作業です。

また、居住者が自由に利用できる環境にハーブが植栽されている場合は、ハーブの採取や分配方法をきちんと決めておく必要があります。

手取除草

ヤブラン

ラベンダー

●●なんでもQ & A●●

Q２：サクラを健康に保つには？

A２：「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」と言われるように、サクラは剪定を嫌う樹木です。しかし、「ひこばえ」や「胴ぶき」「徒長枝」などと呼ばれる、幹や枝の途中から生えている枝を放っておくと、養分や水分が全体に行き渡らなくなって樹勢を弱らせます。また、他の枝に絡むように伸びている「からみ枝」は、枝同士が風でこすれて傷ができ、折れたところから腐朽菌が侵入して枯れる原因となります。このような枝は早期に除去するとともに、切り口をそのままにせず、ゆ合剤を塗って切り口から病原菌が入るのを防いでください。

5. 芝生の管理

芝生の主な管理は芝刈、除草、灌水、エアレーションなどがあります。

1）機械芝刈（ロータリー式・肩掛け式）

芝刈は主に5月から生長の止まる11月ごろまで毎月行うことが望ましいです。実際には、費用や手間もかかることから、生育状態を見ながら年間4～5回行う場合が多いようです。芝刈を行うことで、芝生の密度が高くなり雑草が生えにくくなる二次効果も期待できます。

作業時に刈払機（草刈機）を利用する場合は、回転する刃に石などが当たり飛散することによる怪我や物損に注意が必要です。

芝刈の主な手順は以下の通りです。

1 芝刈前に、小石や空き缶などを取り除き、事故が発生しないようにします。また、器物や樹木などを損傷しないように注意します。機械の側に網戸などを設置して、石などが飛ぶことを防ぐ方法もあります。

ロータリー芝刈機による芝刈

2 刈り残しや刈りむらのないよう均一に刈り込みます。

3 ロータリー式芝刈機での作業が困難な場所については、肩掛け式芝刈機または手刈りで行います。

4 刈り取った芝（サッチ）を放置していると、芝生が蒸れて病気が発生したり、枯れたりする原因となるので、サッチは速やかに搬出処理します。

2）抜取除草

1 雑草は除草フォークなどを用いて、根から抜き取ります。

2 芝生の根を切ったり、傷めないよう、注意して作業します。

3 除草後は、不陸のないように整地し、清掃します。

4 抜き取った草は、速やかに搬出処理してください。

3）芝生施肥養生

施肥は、主に粒状化成肥料を施用します。

1 施肥は芝刈後に行い、むらのないように均一に散布します。散布むらが発生すると、芝生の茂り方がまばらになり美観を損ないます。

2 粒形肥料を施す場合は、降雨直後など葉面が濡れている時を避けてください。

3 芝生の生育状況により肥料配合率や施肥量の調整が必要な場合があります。

4 芝生が著しく損傷している場所は、施肥後にロープ柵などで囲い養生をしてください。

4）灌水

1 灌水は、水が十分に根に浸透するまで均一に行います。

2 夏季は朝および夕方に行い、冬季で乾燥が続く場合は日中に行います。

5）エアレーション

芝生は踏圧に強いですが、常に踏まれていると新芽の傷みと同時に土壌も締め固まり、生育不良となり、しまいには裸地になってしまいます。これらを防ぐためにエアレーションを行います。エアレーションは芝地に穴を開けることで根の酸素供給を促し、発根を促進します。また、エアレーションで開けた穴に目砂を入れることで土壌改良にもなります。自動灌水等が敷設されている場合は灌水ホースを切断しないよう、注意が必要です。

人力によるエアレーション

6. 草花の管理

敷地内の花壇やフラワーポットなどの適正な維持管理を行い、良好な状態を維持することを目的とします。

1）植え付け・植え替え

花苗の植え付け

1 古株、雑草などがある場合は、根から掘り起こし、土を払います。
2 植え付け・植え替え場所は、ゴミなどを除去後、植栽面を 20cm 程度まで掘り起こした上で、凹凸のないよう均一にならします。
3 施肥を行う場合は、むらなく均一に撒き、土と混合させます。
4 花の種類、色、組み合わせ等については全体の調和、高さ等のバランスを考えます。
5 苗の植え付け間隔は、生長して株が大きくなることを考慮します。
6 植え付け後はよく灌水し、傾いたり、浮き上がったりする苗は植え直します。

2）除草と花殻摘み

花殻摘み

1 花の傷み、枯損、盗難などを点検しながら、雑草は適宜抜き取ります。
2 咲き終わった花の花殻は、必ず丁寧に摘み取り、摘み残しのないようにします。
3 寒さや強風による花苗の傷みや枯損を発見した場合は、植え替えるようにします。
4 ゴミや空き缶、吸殻などは拾います。

3）灌水

1 灌水実施の目安は、土が白く乾いた状態を目安とします。
2 夏の灌水は朝・夕の涼しい時間帯に花壇や鉢の隅々にしっかりと行き渡るように行います。昼間に灌水すると水滴のレンズ効果で葉や花が焼けてしまいます。
3 花びらに強くかからないようにします。

4）施肥・防除

1 花苗の植え付け時や花の状態を見て必要に応じて施肥を行います。
基本的に緩効性肥料を使用します。
2 病虫害の発生状況に応じて殺虫剤や殺菌剤による防除も行います。
薬種は農薬取締法等の法令に適合する薬剤を使用します。

露地花壇

プランター植栽

5）球根

チューリップの球根

秋植え球根（チューリップ、スイセン、クロッカス、ユリなど）は寒さに当たることで発芽の準備をします。肌寒くなった頃（15℃前後）が植え付け時期です。寒さに十分当たらないと背丈が伸びず、花付きも良くありません。日当たりと水はけの良い場所を選び、土を 30cm 程度掘り起こした上で、球根の 2 ～ 4 倍の深さを目安として植え付けてください。植え付けたら水をたっぷりと与え、その後は基本的に自然の雨に任せます。

また、チューリップは、球根の向きを揃えて植えると、それぞれの葉の向きが同じ方向に並び、花が咲いたとき、美しく見えます。

7. 施肥の管理

施肥は、花付きや結実を良くしたり、開花・結実後の養分補給、地力の維持や病虫害に対する抵抗力を付けることを目的に行います。

1）肥料の原料

肥料の原料は大きく、次の二つに分けられます。

■有機質肥料

一般に牛ふん、鶏ふんなどの動物性の堆肥、骨粉類、魚肥類、わら、落ち葉など植物性の堆肥、草木性植物油かす類。

■無機質肥料

チリ硝石、リン鉱石などと合成した無機質化合物

無機質肥料を連続して与えていると土の中の有機物が減少してしまいます。それらを餌にしている微生物も一緒に減少してしまうため、腐葉土などの有機物などを混ぜることで土環境のバランスを取るようにします。

2）肥料の効き方

■速効性肥料

肥料を与えるとすぐに効果が現れますが一時的で長続きしません。

無機質肥料の液肥や化成肥料などです。追肥に使用します。

■緩効性肥料

肥料を与えた時から効き始め、徐々に溶け出して長期間効果が期待できる肥料です。元肥および追肥など多く使われています。

■遅効性肥料

与えても効果はすぐに現れません。土壌中の微生物や水分などで分解されて徐々に効いてきます。有機質肥料などです。

3）肥料成分

市販で売られている肥料の商品の袋、容器には必ず表示してあります。

表示方法は全世界共通になっており、100ｇ当たりの成分重量ｇを示しています。

多くの肥料は窒素、リン酸、カリの三大成分で構成されています。

施肥の目的に応じて、肥料を使い分けることが効果的です。肥料の袋に表示されている特性を見て、肥料を選んでください。

粒状肥料

固形肥料

施肥の様子

4）肥料の与え方と時期

肥料は植える前の元肥と生育期の追肥などに分けられます。

■元肥

草花、花木や庭木を植える時に初めから与える肥料です。緩効性肥料、遅効性肥料を用います。

■追肥

生育期には元肥だけでは不足する肥料分を補うために施します。

・お礼肥

開花後、収穫後に植物が弱るので回復を図るため行います。

・寒肥

花木、庭木や果樹など休眠中に来春の生長に役立てるために行います。元肥と同様の緩効性肥料、遅効性肥料を行います。

なんでもQ＆A

Q３：夏を彩るサルスベリの花を楽しむには

Ａ３：夏に花をつける数少ない代表的な花木です。枝の伸びる勢いが強いので、放っておくとどんどん大きくなります。花はその年に新しく伸びた枝につくので、１年に１回、12～２月頃に枝のつけ根から勢いよく伸びてくる枝を根元から切り落とします。

暑さに強く、寒さに多少弱いので、一年を通して日当たりのよい場所で育てることが花を楽しむコツです。また、ウドンコ病やイラガ（毛虫）などが発生しやすいので、発見したら早期に除去してください。

8. 灌水の管理

普通の地面に植わっている樹木などの管理において、通常は灌水の必要はほとんどありません。

しかし、新しく植栽した樹木や地被植物、芝などでは、灌水は必要です。

また、近年の酷暑においては、地面に植えられている樹木についても灌水は必須となっています。

1）植物を植えるときの灌水

植物を植え付けるときに、土を埋めながら一緒に穴の中に水を流し込んで、根の隙間に土が詰まるように植え付ける水極めという方法で灌水します。

一般的には樹木に使われる方法ですが、草花の植え付けの場合も樹木同様に根の隙間に土が詰まるようたっぷり灌水します。

水極めによる灌水

2）植物の根が活着するまでの灌水

植物を植え付けして間もない時は根が傷んでしまっているので、新しい根が出るまでは乾かないようにこまめに灌水します。

3）植物の根が活着してからの灌水

屋外でしっかり根がはって、葉も幹も生長してきたら通常は特に灌水する必要はありません。

しかし、植栽桝の大きさ、土壌の厚さによっては灌水が必要になります。

水枯れした葉

樹木であれば葉がチリチリになってしまう、草花であればぐったりしてしまったら水枯れを起こしています。そういう場合はたっぷり灌水します。一度、水枯れを起こしてしまうと土壌の水分がかなり減少しています。一回で終わりにしないで何度か続けて灌水することが望ましいです。

4）夏と冬の灌水の注意

夏場の灌水は、日中に灌水すると土の中で水が高温になり、根を傷めてしまいます。早朝もしくは夕方涼しくなってからが望ましいです。

冬場は逆に 10 時から 3 時頃の暖かい時に灌水して、凍結を防ぎます。

また冬場は、地上部が枯れてしまっている植物や休眠中の植物はうっかり灌水を忘れて枯れてしまうことがあるので、注意が必要です。

5）灌水のやりすぎ

「水が足りないのでは？」と灌水しすぎると、常に水がある状態が続くので自ら根を伸ばさなくなり、弱ってしまいます。また土粒と土粒との間に常に水が溜まり、土壌中の空気が無くなって根が酸素不足になり、根腐れを起こしてしまいます。やりすぎにも注意が必要です。

なんでもQ & A

Q４：秋の香り、キンモクセイを楽しむには？

A４： 日当たり、排水の良い肥沃な場所では花付きが良いですが、日陰地では、花付きが悪くなります。剪定は、開花が終わった直後の 10～11 月か、3～4 月が適期です。寒さに少し弱いので、真冬の剪定は避けてください。剪定せずに何年も放っておくと窓を覆ったり、高さが 10 メートル位まで大きく育ち、日当たりや風通し、見通しを悪くしたりするので、剪定して形を整えることが不可欠です。

ただし、排ガスなどの大気汚染に敏感なので、花芽が付かなくなったり、香りが弱くなったりしたら、葉の表面の汚れを洗い流すように水をたっぷりとかけると改善されます。

9. 病虫害の防除

1）虫害

害虫には、植物の葉や茎や幹などを食い散らす食害性害虫と、植物の汁を吸う吸汁性害虫に分けられます。
センチュウやハダニなどは例外でほとんど肉眼で確認できます。

■**アブラムシ類**（吸汁性害虫）
新芽や新梢に小さい虫が群がって付いています。色は緑、黒、茶色、黄色などさまざまです。

■**カイガラムシ類**（吸汁性害虫）
葉や幹などにこびり付いています。貝殻に似た殻をかぶっています。

アブラムシ

■**毛虫類**（食害性害虫）
葉や幹を食い荒らします。若齢幼虫のうちに防除するのが望ましいです。
ツバキ類につくチャドクガは、触ると猛烈にかゆくなるので手袋などをして撤去し、焼却するか薬剤を散布して駆除します。
サクラ類によく寄生するモンクロシャチホコは、黒いふんを落とし、上を見ると葉が食い荒らさせていることがあります。

モンクロシャチホコ

■**イラガの仲間**（食害性害虫）
短くて大きな毒があり、触ると激しい痛みが生じます。

■**コガネムシ**（食害性害虫）
幼虫は土の中で根を食害、成虫は果樹、草花などを網目状に食い散らします。夜間に土から出てきて地際の茎を食べてしまいます。

2）病害

病害の原因はカビ、ウイルス、細菌に分けられます。
カビ、細菌が原因で起こる病気は殺菌剤を散布して防除できます。
ウイルスが原因で起こる病気はアブラムシなどの害虫が媒介したり、接触したりして発生します。感染する前に予防薬を散布します。

すす病の症状

■**うどんこ病**（カビが原因）
うどん粉をまぶしたように白いカビが生えます。

■**すす病**（カビが原因）
葉の表面に黒いすすのようなものが付着します。

うどんこ病の症状

■**もち病**（カビが原因）
葉がもちを焼いたときのようにぷっくり膨らんで、やがて腐敗してしまいます。

■**モザイク病**（ウイルスが原因）
新葉に緑色の斑点や葉脈の緑色が薄くなると、次第に斑模様でモザイクが生じてきます。

■**軟腐病**（細菌が原因）
細菌が傷口から侵入して、地際部が腐敗して悪臭がします。

3）病虫害防除の薬剤

植物の病虫害防除を安全かつ効果的に行うことで、植物の健全な育成を図ります。
野菜や草花は土にまくだけで効果のある薬剤もあります。狭いところであればスプレー剤などが適することもあります。
庭の木や広い面積での被害であれば、乳剤、水和剤などを噴霧器で散布するのが効果的です。

薬剤のラベルに記載されている注意事項や「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル」（環境省　水・大気環境局）なども参考にして、危害防止のための対策を講じてください。

噴霧器による薬剤散布

病虫害防除は、チャドクガやイラガのように人体に被害を及ぼす害虫に対しては薬剤散布による駆除を行います。その他の毛虫は鳥の餌となり、毛虫の発生時期にヒナを育てるので、支障のある場合のみの駆除が良いでしょう。

病害については、剪定で風通しを良くし、病葉落葉の掃除をするなど物理的な対応で対処し、殺菌剤の散布を控えることが望ましいです。

薬剤散布を行う場合には飛散に注意してください。

なんでもQ&A

Q５：スイセンを来年も楽しむには？

A５：早春を白や黄色の可憐な花で彩るスイセンの管理についてご紹介します。
花が終わったら、花殻を摘み、葉をよく茂らせることで球根を太らせます。日当たりや水はけが悪かったり、花後に葉を切ってしまったりすると球根に栄養が蓄えられず、翌年の開花は期待できません。
また、３～４年植えっ放しにしておくと、球根が分球して混み合い、花の咲きが悪くなるので、花が終わり、葉が枯れて休眠期に入る６～７月頃に球根を掘り上げ、一つずつばらばらにして、秋になったら植え替えてください。

Q６：アジサイを長く楽しむには？

A６：花の終わった後、夏から秋にかけて来年の花芽が付きますので、７月末までには、その年に伸びた枝の下から２～３節を残して剪定します。花のつきを良くするために、肥料を花の咲き終わった直後と芽出しの時期（３月下旬頃）に、株の周りにひと握り与えてると良いでしょう。また、冬の冷たい北風を受ける場所や日陰地では花のつきが悪くなりますので、ご注意ください。

10.　除草の管理

除草には、主に三つの方法があります。

1）手取りによる方法

芝生や低木植込みの中などから生えている草は、手取りによる方法で抜き取ります。この時、なるべく根から引き抜くようにします。

手取りによる除草

2）草刈機による方法

構造物や樹木が少なく、面的に管理するには草刈機による方法が簡便です。ただし、根が残っているので、年間の作業回数が多くなります。

3）除草剤による方法

特定の草だけを枯らすことのできるタイプや、新たな草の発芽を抑制するタイプなどもあります。散布後の分解が早く、人体への毒性が低いタイプを選択しましょう。除草剤は、居住者の理解が得られる場合には、非常に省力化を図ることができます。

草刈機による除草

さらに、マンション緑地全体の計画を見直しながら、場所によって防草シートや防草効果のある舗装材などの利用、被覆力の高いグランドカバープランツも検討しましょう。

11. ベランダガーデンの土のリサイクル

連作障害が気になるプランターでの菜園や植木鉢で育てた草花の土は、簡易にリサイクルができます。連作障害は、病気を引き起こす微生物の繁殖が原因です。土のリサイクルはその微生物を減らし、新しい有効な微生物を供給することにより行います。

■リサイクルの手順

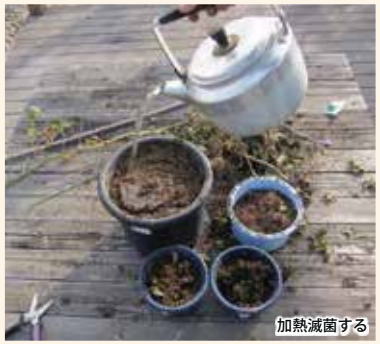
1）根を取り除く

土の中に残っている根を丁寧に取り除きます。ホームセンターなどで販売されている篩（ふるい）があると便利です。篩は1cm角ぐらいの荒目のものが良いでしょう。

根を取り除く

2）加熱滅菌する

微生物を減らすには、加熱滅菌が有効です。黒いビニール袋に入れて口を締め、天日に当てるという方法がよく知られています。時間と場所がある場合には簡便な方法です。また、熱湯を直接かける方法も有効です。プランターがプラスチック製の場合には、変形などに注意して行います。


加熱滅菌する

3）有効微生物を供給する

加熱滅菌により有効な微生物の数も減少するため、市販の堆肥を足すことで微生物を供給します。リサイクルの一連の作業を行うと土が目減りしますので、目減りした分の埋め合わせとして堆肥を追加します。

12. 落ち葉・剪定枝のリサイクル

落葉・落枝は樹木の生理現象であるため、樹木があるマンション緑地では避けることができません。

1）落ち葉の発生時期と対応

常緑樹で5月以降夏ごろまで、落葉樹では11月以降一斉に落葉します。掃き掃除した落ち葉は、積極的に樹木の根元や植え込みに敷きならすなどして、土壌管理の一環に組み込みます。処分する場合はため込まず自治体の指示に従ってこまめに処分します。

2）腐葉土の作り方

ポリバケツ、段ボール箱などで腐葉土を作り、ベランダ園芸などで使うことができます。

まず、集めた落ち葉に湿る程度に水を与えます。次に、容器に入れ、踏むなどして圧密にします。圧密にすることがポイントです。1カ月ほど保管した後よくかき混ぜます。この時、乾燥しているようであれば、水を補給します。切り返し作業と呼ばれます。その後は、3カ月に1回程度切り返し作業を行い、葉の原型が崩れ始めたころから腐葉土として使うことができます。

3）落枝の対応

落枝は、その大きさによっては人的被害につながることがあるため、枯れた枝の早期発見が最も重要です。落葉樹は春の芽吹きの頃が発見しやすい時期です。常緑樹では、葉のついてない枝は枯枝と判断します。発見した場合には、造園会社に剪定を依頼します。

落ち葉や剪定枝の集積

13.　植栽基盤の管理（良好な土壌作り）

植物の生長を左右する条件として、良好な植栽基盤が挙げられます。

1）水はけを良くする

植物が良好に生長するために最も重要な要素は水はけです。水が滞水するような土壌では植物はうまく育ちません。マンションや団地では、建築物を建てるために地盤を締め固めている場合があります。一見、土壌が良好に見える場合でも、不透水層に水が滞水し、植物の生長を阻害している場合があります。

2）根が張れるスペースを確保する

植物を良好に生長させるには、根がしっかりと張れるスペース（広さと深さ）を確保することが必要です。土壌が硬い場合には、根は地中深くに張ることができません。また、コンクリートなどの構造物に囲まれている場合には、根を広く張ることができません。このような場合、植物は生長とともに次第に衰退していく傾向にあります。根が地表面に露出して張っていたり、構造物に沿って張っていたりする場合は、スペースが足りない一つの目安になります。このような場合には、土壌を膨軟化させる必要があります。

通路沿いに張り出した根

壁を押し広げた樹木

舗装を持ち上げた根

3）肥料と堆肥の供給

積極的に植物の生長を促すには、肥料と堆肥の供給が必要です。肥料とは植物のための栄養素で、堆肥とは土壌を良くする改良剤です。葉の色が悪い場合などは、肥料の供給が必要です。肥料には多くの種類があります。量や回数などは専門家のアドバイスを受けましょう。また、堆肥は、土壌の固結防止、土壌の乾燥防止、保肥性の向上など総合的な役割を果たしています。マンション内の緑地から発生した落ち葉などを積極的に利用しましょう。

14.　風雪害への対応

風雪害に対しては、第一に高木等を適切に管理しておく必要があります。樹木は剪定をしなくても生育はしますが、日が当たりにくくなった内部には枯枝が発生しやすくなります。枯枝は強風でなくても急に落ちる場合があるため、注意が必要です。

1）風害

台風や強風等で起こる倒木や傾きに対しては、無理して地上部を大きく仕立てないことと支柱の点検が重要なポイントになります。支柱は新しくすることで、美観が改善される二次効果も期待できます。沿岸部では、台風の風で飛沫した海水が植物に付着し葉を枯らす塩害が発生する場合があります。

塩害に強い植物と弱い植物がありますが、台風通過後は真水で植物を洗い流す必要があります。

2）雪害

雪害では、枝折れが多く発生します。特にクスノキは枝が柔らかく折れやすいため、被害が多く発生します。

被害を大きくさせないために、隣地へ枝を越境させない、車両等を樹木下へ駐車しない等の他に、大雪の予報が出た場合は看板等により注意喚起するのも有効です。

強風による幹折れ

強風による倒木

積雪による枝折れ

1. 自主管理と委託管理の仕分け

作業の難易度、危険度などに応じて、自主管理と委託管理を使い分けましょう。

1）自主管理

自主管理による花壇管理

①難易度の高くない（低い）もの
- 手の届く範囲（地上）での作業（脚立に乗らない）
  →低木刈込、生垣刈込、中木剪定
- 特別な知識や技術がなくてもできる作業
  →草刈（手刈）、除草、草花管理

②自主管理（住民参加）で行うことで、委託費用削減効果の高いもの
  →草刈（手刈）、芝刈、除草、 水やり

2）委託管理

安全帯・ヘルメットの装着が必要な高所作業

■難易度の高いもの
- 作業に危険を伴うもの
- ハシゴ上での作業が必要なもの
- 樹木に登る作業が必要なもの
- チェーンソー、刈払機等の動力機械の作業を伴うもの
- 病虫害と農薬
- 樹木の生理や特性を把握した管理が求められるもの
- 樹木や剪定に関する知識や技術が必要なもの
  （樹木の健全育成、良好な樹形を保つため）
- 素人知識、素人判断、知ったつもりでの剪定は禁物
  （木が傷み、樹勢が衰えます）

2. 場所や目的に応じた管理の考え方

樹木の種類に応じた管理の目的と内容があります。植物の特性や機能に応じた管理の目的と内容を理解しましょう。

管理のタイプ	目的	管理の内容	難易度
高木管理	健全育成 良好な樹形形成 支障防止、改善	剪定 間引き 新植・移植	高
中木管理	健全育成 良好な樹形形成 支障防止、改善	剪定 間引き	高
生垣管理	高密化防止 高木化防止	剪定 刈込	中
低木管理	樹形形成	刈込	低
花壇、草花管理	修景	植替え 施肥 花殻摘み	低
芝生管理	健全育成	芝刈り 除草 施肥、目土 エアレーション	低
植栽地管理	良好な 環境形成	除草 雑草刈 土壌改良	低

3. 自主管理のポイント

安全に長続きさせるしくみを作ることが自主管理のポイントです。

1）長続きさせるためのポイント

- 無理のない作業時間と頻度（回数）を保つ
- こまめな休憩と作業後の一服タイムを忘れずに
- 専門家を交えた勉強会、講習会の開催

2）怪我や事故への備え

- 保険に加入する…自治活動保険（もしくはボランティア保険）
- 救急箱を用意する（切り傷、擦り傷、打撲、蜂、毛虫）
- 作業時間を考慮する（午前、夕方）
- 日射病・熱中症対策を行う（日除け防止、水分補給、複数人作業）

3）意識

- 無理をしない、力まない
- 仲間と楽しく
- 趣味と健康、余暇の充実くらいの意識

4）仕組み、体制

- 自治活動として管理組合の承認（年次計画、管理方針、管理内容、予算）
- 大木の伐採は住民間の合意形成を図ってから
- 自主管理ができなかった場合の予算を確保しておく
  （悪天候や人手不足で適期での草刈、除草ができない場合の予算措置等）

「みどりのボランティア活動」

団地内の緑地を地域のみどりとして位置づけ、地域として管理する
～地域参加を成功させるためのチェックリスト～

①いつでも参加でき、いつでもやめられるような開放的なシステムか

②楽しく参加できるようにきめ細かいイベントや催しなどを考えたか

③喜び・生きがい、満足などを誰でも得られるか

④ボランティアを無償の労働力と思っていないか

⑤子どもや高齢者あるいは障がい者も能力に応じて参加できるか

⑥増加する元気な高齢者が参加しやすいか

⑦参加することが健康・運動・レクリエーションなどに寄与できるか

⑧参加しない周辺住民や考え方の異なる人たちに認知され、
理解と合意を得られるか

⑨参加者は誰にでも公平で、真に公正な考えを持っているか

⑩核になる人・事務局・世話人など適切なチームリーダーがいるか

⑪専門的な知識を持つ相談役やアドバイザーはいるか。
または専門家を雇えるか

⑫近隣の一芸に秀でた達人を仲間にできるか

⑬仲間の中にいるさまざまな専門家や有能な人をその活動の中で活用したか

⑭何らかの補助や助成金、または物的援助を検討したか

⑮同様な活動を行う他のグループと情報を交換し、連携・交流したか

⑯次世代への活動の維持・発展、普及啓発のための情報を発信したか

⑰事故対策はしたか

参考：「公園緑地」2002.5　VOL.62.6「ランドスケープコンサルタントによるファシリテータの役割と技術」（有賀一郎）

4. 委託管理のポイント

委託管理のポイントは要望や考えをきちんと伝えることです。作業の方向性を明確にして、管理作業の効率と効果を高めましょう。

1）伝えるべき要望

・予算、問題の伝達
→予算内で収まる提案の依頼
（管理のメリハリ、優先度をつける。管理対象や頻度を減らす等）

・大事な樹木の取り扱い（花木、記念樹など）

・住民意識の伝達（剪定に際し、住民要望のある樹木）

・樹木管理のルール（高さ、樹形、日照や見通しに留意している樹木）

・特記事項

2）コミュニケーションを図る

・見積依頼時
管理組合の考えていること（要望）、問題と思っていることを伝える
→委託会社と共通認識を図る
→問題に対する専門家の意見や考えを聞き、管理計画や見積に反映してもらう

・現地での意見交換
具体的な管理要望や問題を伝える
管理業務に対する要望を伝える
→管理作業の方向性が明確になり、効率・効果が上がる
→要望通り、納得のいく管理作業となる

・意見交換会
委託会社からの作業報告、問題点の報告
追加、変更作業の提案、対応検討

植栽管理会社との打ち合わせ

3）確認検査の内容

・写真による確認検査
→作業写真（前・中・後）、安全管理状況、使用材料、発生材搬出状況

・現地立会いによる確認検査
→剪定・刈込状況、除草・草刈（作業翌日）、薬剤散布

現地での確認

4）委託会社とのトラブル防止のポイント

管理内容に応じて効果的な管理を実施するためのポイント

・依頼事項（見積事項）の明確化
→仕様書の作成、管理台帳（図、リスト）の提示、現場説明会の実施

・見積内容の確認（項目、内容、数量、頻度、単価、仕様等の突合せ）

・管理計画、提案書の提出依頼

・作業実施のルール確認
（住民対応、安全管理、作業届、作業時間、責任者確認等）

・確認検査、支払条件の確認

・変更、追加対応の方法

・トラブル発生時の対応方法の確認

なんでもQ&A

Q7：モミジのお手入れ

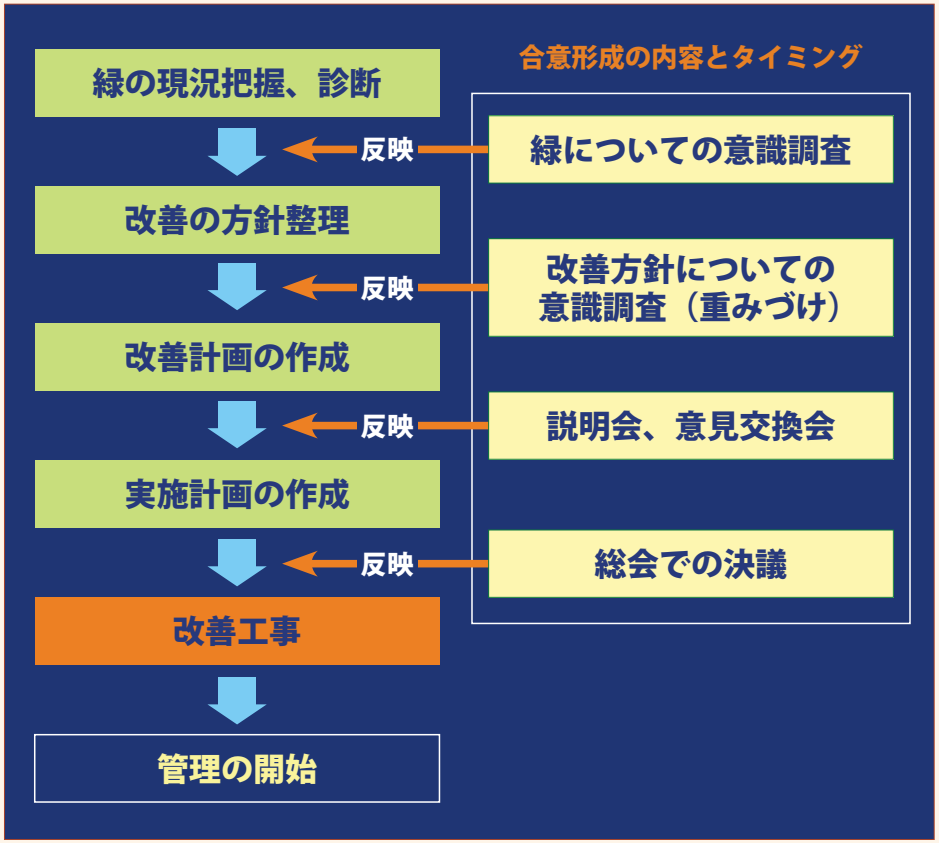
A7：定期的な剪定が必要というわけではなく、強い剪定を嫌います。絡んだり、交差して樹形を乱す枝を落葉後の11～12月頃に間引く程度で、自然のままに枝を伸ばす方がモミジ本来の美しい樹形を楽しむことができます。その際、できるだけ太い枝を残して樹形を整え、小指より太い枝を剪定したときは、切口に殺菌剤を塗って枯れるのを防いでください。また、テッポウムシ（カミキリムシの幼虫）が、幹の中に入ると幹を食い荒らし、発見が遅れると木を枯らしてしまいます。幹に穴が開いていないか、木くずやふんが幹の周囲に落ちていないか確認することで、被害の早期の発見につながります。

1. 改善の流れ

1）改善の流れとポイント

みどりの改善は、大きく以下の流れで進めます。改善を進めるためは、専門的・客観的な視点からみどりの現況を把握・診断し、改善計画を策定するとともに、段階ごとの住民間の合意形成が重要になります。

みどりに対する想いは人それぞれに異なることから、住民間の合意形成を図らないまま進めると住民間や理事会と住民間でのトラブルを生じます。また、改善事業が進められなくなるだけではなく、これまで築いてきたコミュニティの崩壊にもつながりますので、時間をかけて慎重に行う必要があります。



2. 改善の種類と方法

1）間引（伐採）による改善

建物の近くに植えられた樹木が大木化して日当たりが悪くなるなど、競合による樹勢悪化等を改善する場合、樹木を間引（伐採）して改善を図ります。

日当たりを改善するために毎年のように強剪定を繰り返して樹形や樹勢が悪くなっている場合、管理費を浪費するだけで、根本的な改善を図ることはできません。樹木を間引く（伐採する）という視点が改善においては重要になります。

また、間引を行うことで、管理対象となる樹木を減らすことができ、管理費の削減や残された樹木の管理に予算を回せるなど、予算の有効活用にもつながります。

2）植え替えによる改善

経年変化で樹木や生垣の衰退、枯死などの結果、目隠しや防塵・防風機能が損なわれている場合があります。この場合は、樹木を植え替えることで機能の回復を図ります。樹木を植え替える際は、季節の彩りや管理の手間（生長が早く小まめな剪定が必要、病虫害が発生しやすいなど）も考慮して樹種を選定することがポイントです。

3）環境改善による改善（土壌、排水、植栽場所）

樹木を何回植え直しても枯れてしまう場合、土壌や排水、日当たりや風当りに問題があります。ガラ混じりの土だったり、排水性が悪く常に土が湿っている状態の場合、土の入れ替えや改良材を混合して土壌の改善を図ります。

また、樹木が生長するためには、光合成を行うための光が必要となります。日陰でも育つ樹木もありますが、極端に日当たりが悪い場所だったり、日陰に弱い樹木だと何回植え替えても枯れてしまいます。

日照条件に合った樹木を植えることも考えられますが、極端に日当たりの悪い場所では、化粧砂利等を敷いて修景を図ることも改善の一つとして考えられます。

4）全面的な改善（リニューアル）

部分的なみどりの改善だけでなく、遊び場や広場、敷地全体で改善（リニューアル）を図ることで、みどりのさまざまな問題を全面的に改善することができます。

樹木の間引きや剪定に加え、新しい樹木を植栽したり、老朽化した施設を改修することで、敷地全体の環境改善、マンションや団地の魅力アップにもつなげることが可能となります。また、みどり全体の管理計画を見直すことで、管理費の有効活用を図ることも可能となります。

リニューアル前　　リニューアル後

3.　合意形成の図り方

1）　合意形成のコツ（ポイント）

みどりに対する想いは人それぞれです。同じ樹木でもお住まいの場所や階数の違いによって問題に対する認識や改善要求は大きく異なります。

また、みどりに対する想いの違いから、これまで築いてきた関係が悪くなったり、改善自体がストップしたりしてしまうことも多々あります。理事会や担当が良かれと思って進めてきたことが、思わぬ結果を招くことがあります。

みどりの改善を進めるにあたっては、専門的・客観的な視点や立場から現況を診断し、計画を作成できる専門家を入れて、時間がかかっても慎重に合意形成を図ることが、改善事業を成功させるポイントとなります。

合意形成を図るポイントとしては、以下のようなものがあります。

- 問題点の共有：どこでどんな問題点が発生しているか。
  困っている人がいるか。
- 改善方針の共有：どのような方針をもって改善するか。
- 将来像の共有：改善後にどのようなみどりの環境となるか。
  どこをどのように改善するか。

これらのポイントや段階ごとに、説明会や意見交換、アンケート等を行いながら、合意形成を図ることが改善事業のカギとなります。

● ● なんでもQ & A ● ●

Q 8：冬の色どりを楽しむには？

A 8：寒い冬に鮮やかな赤や白、ピンクの花を咲かせ、彩を添えてくれるツバキ（椿）とサザンカ（山茶花）です。

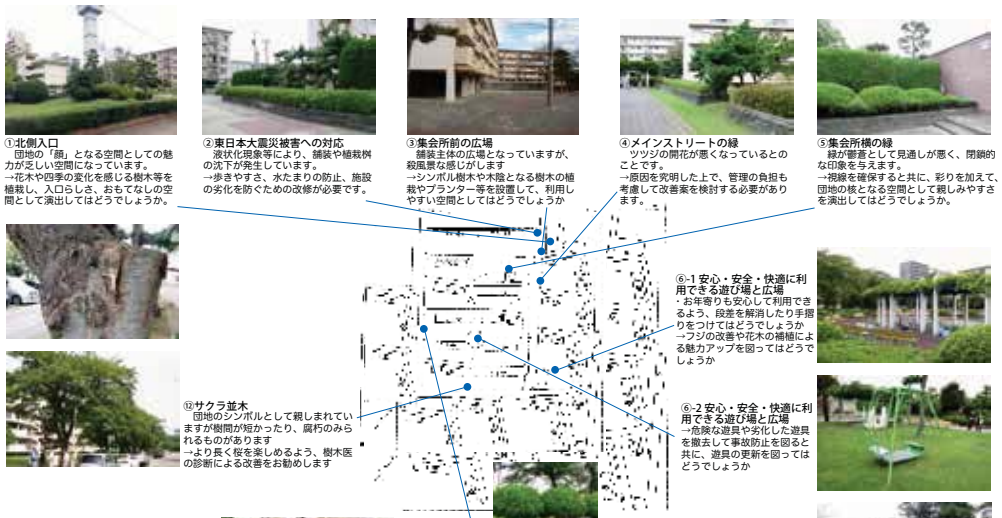
冬の間、鮮やかな色の花をつけるツバキやサザンカの管理で一番気をつけることは、剪定のタイミングです。花が終わった後すぐに、伸びた枝を切るようにしてください。秋以降に剪定すると、花芽が切り落とされてしまい、翌年に花を咲かすことはありません。また、剪定にあたっては、枝を透かすなどして、風通しが良くなるよう心がけ、チャドクガなどの毛虫や害虫の発生を防いでください。

近年、チャドクガの大量発生に頭を悩ませている方も多いと思います。4月から5月と9月頃の年2回発生します。早期発見を心がけ、見つけたら、木全体に広がる前に枝ごと処分（焼却など）してください。

2） 問題点を共有化する

合意形成の第一歩は、どこでどんな問題が発生しているかを把握・共有することから始まります。問題が発生している場所と状況を図化することで、問題の共有化を図ることが可能となります。

■みどりの所見シート



「みどりの所見シート」の作成による問題点の共有

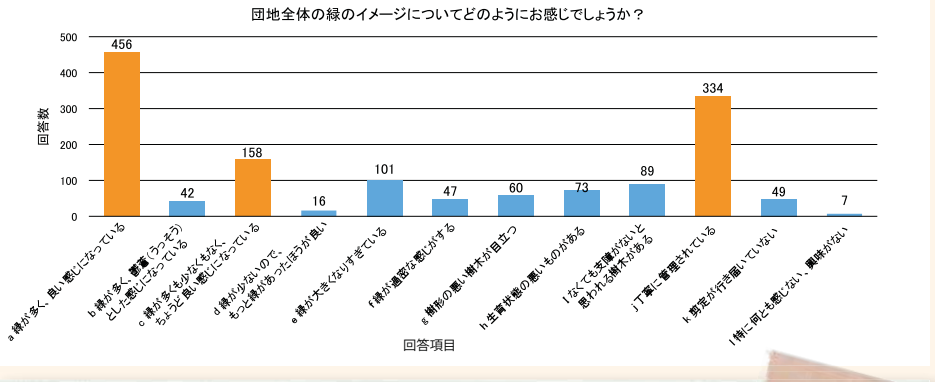
3） 要望の把握（アンケート、意見交換会）

問題点の把握、お住まいの場所や階数による認識の違いを把握するためにアンケートは有効です。アンケートは問題の傾向や改善要望を把握するだけでなく、お住まいの住棟や階数も回答してもらうことで、問題改善の優先度合を把握することが可能となります。

また、アンケート結果を住民に提示することで、問題に対する認識の違いを理解してもらうことが可能となります。

■改善案に関するアンケート

NO	改善案	内容	了承（○・×）	ご意見	お住まいの場所		
					近接住戸	近接住棟	その他の住棟
1	1,2号棟入口の演出	住棟入口通路の草本類による緑化				階	
2	北東側駐車場の石積みと法面の緑化	つる植物による下垂緑化				階	
3	1,2号棟入口脇の改修	新たなシンボル樹の植栽と小広場（憩いの空間）の設置				階	
4	4号棟前の改修	大木化したケヤキの整理と小広場（憩いの空間）の設置				階	
5	ガーデンストリート-1	団地内道路沿いの小高木による修景				階	
6	ガーデンストリート-2	歩行者部の舗装改修による明示				階	
7	みどりの丘	築山の地形を活かした見通し良い植栽空間 側溝沿いに平板を一列設置				階	
8	既存砂場の移設	2号棟南側へ移設				階	



緑のある風景

モミジ

モミジ「紅葉」はカエデ科カエデ属の落葉高木で、なかでもイロハモミジは秋の紅葉の代表種として知られています。春の新葉も明るくて美しいことでも知られ、300 種以上の園芸品種を誇っています。植物分類上ではカエデとモミジの区別はしません。植物学的にはモミジもカエデも「カエデ」ですが、園芸上や盆栽の世界では葉の切れこみ数、切れこみ具合によって明確に区別しています。葉が五つ以上に切れ込んで掌状のものをモミジと呼び、それ以外の切れ込みが浅いものをカエデと呼んでいます。さてこのモミジ、皆さんの団地では傷んでいませんか？

落葉樹の大半は、葉を落としている間は休眠期間中です。この期間に剪定をしても木を傷めることはありませんが、カエデとモミジは例外です。カエデやモミジは「早寝早起きの木」といわれ、葉を落として眠りについても直ぐに目を覚まし、年を越すとすでに樹液の流動が始まります。このときに枝を切ると切り口から水を吹き出し、また切り口が腐りやすいので木が極端に衰弱してしまいます。ですから落葉直後が剪定適期で、この期を逃した場合は休眠期間があける春先まで待ちましょう。

（尾澤 修:「アメニティ」2012.11号より）

3）将来像を共有化する

みどりの改善で住民の皆さんの疑問や関心事は、いろいろです。

「どの樹木が伐採されるのだろう？」

「みどりが減らされた後、どうなるのだろう？」

「どれくらい費用がかかるのだろう？」

特に、「問題を解決することは良いけれど、みどりを伐採した後、殺風景になるのではないか」、「みどりの資産価値が落ちてしまうのではないか」ということを心配をされる方も多くいらっしゃいます。

そのような心配事を解消する上でも、改善の方針や改善計画を説明する機会を設け、将来像を住民の皆様に理解していただくことが重要となります。

「みどりの改善方針図」の作成による将来像の共有

4）専門家によるサポート

合意形成を円滑に進め、みどりの改善を成功させるには、集合住宅や公園の計画や設計のプロ（造園コンサルタント）や専門機関を活用することもポイントです。

客観的・専門的な立場からみどりの現況診断、計画作成、合意形成を行うことで、住民間のトラブルを回避したり、事業を円滑に進めることが可能となります。

造園コンサルタントによる住民説明会

樹木医による樹勢診断

緑のある風景

ケヤキ

ケヤキ「欅」はニレ科ケヤキ属の落葉高木で、扇状、放射状に枝が広がる美しい樹形が特徴で、その語源は「けやけき（美しい）木」に由来すると言われています。

９月に入っても強い日差しの日が続くと、広場や通りなどに大きな木陰をつくったり、木立を抜ける爽やかな風を提供したりしてくれるケヤキは、残暑の厳しい季節に欠かせない樹木といえるでしょう。また、並木状に植栽して通りの美しい景観をつくったり、シンボルツリーや緑地を構成する樹木として植栽され、どこの団地でも目にすることができる親しみやすい樹木です。そして、冬になって落葉した後の樹形も美しく、イルミネーションが点灯したケヤキの美しさも格別です。

このように、どこの団地にも植栽され、一年を通して親しみやすく、美しいケヤキですが、建物に近すぎると住戸の日当たりや風通しを悪くして、快適で健康的な生活を送ることが難しくなってきます。上の階や離れた場所から眺めるには美しいですが、１階や２階にお住まいの方にとっては昼間でも電気をつけたり、洗濯物が乾かなかったりと切実な問題が発生します。

大きく生長した樹木は、見栄えは良くても、生活に切実な問題を引き起こすことがあるので、困っている人の気持ちも理解して、剪定したり、時には間引いたりすることが重要です。

（西山秀俊:「アメニティ」2012.9号より）

4. 改善工事の進め方

改善事業の実施にあたっては、改善の必要性と効果、合意形成まで至った経緯（プロセス）、そしてそれに基づいた体制を十分再認識した上で着手しなければいけません。今までの経緯を、理事会・住民、コンサルタントと施工業者とが共通認識を持つことが最も重要です。

1）作業の告知

工事着工前には、居住者に対する説明会を行い、工事に対する理解と協力を求めます。その場合には一般の方でもわかりやすいように、専門用語などを極力使わず、イラストや写真などを使うなどの工夫をすることも必要です。

また、作業の工程や作業範囲などを、掲示板や回覧もしくは各住居へのポスティングを行うことで、工事を円滑かつ安全に進めることができます。特に、作業が開始してからは天候や作業状況などによって工程が短縮もしくは遅延したり、作業手順の変更などによって作業範囲などが変わってくる場合もあります。工程や作業範囲が変更となる場合はタイミングを逃さずお知らせするようにしてください。

2）準備工事

作業の告知後、施工の準備段階に入っていきます。まず、作業内容を確認した上で、施工場所の状況を十分に把握することが必要です。

・人や自転車・自動車などの動線と通行・歩行支障の確認
・仮設の駐車・駐輪スペースの確保
・施工における仮設資材置場の確認および住民生活への支障の有無等の確認が重要。

この段階で、事前の合意形成に至ったプランとの相違が出てくることがあります。逐次、施工会社、コンサルタントを交えて対応策を協議して、早めに解決することを心がけてください。

3）仮設工事

作業の詳細が固まったら、次に仮設工事を開始します。仮設工事とは、作業によって通行・歩行の支障が出る場合に、安全に利用できる通路を確保したり、作業範囲に入ってけがをしたりしないように、仮設のフェンスを設置することや、必要な場合には夜間照明や仮設の水道・電気などを使えるようにすることです。

また、必要な場合には、作業員の休憩所や作業資機材置場のために仮設のユニットハウス（プレハブ）を設置する場合があります。その場合にも、住民の生活の支障にならないように配慮をすることが重要です。

4）改善工事の開始

仮設工事が完了したらいよいよ改善工事が始まります。改善工事にもいくつかの種類があります。

・既存構造物の撤去工事
改善計画で不必要になった樹木や、修繕する舗装などを撤去します。

その後、改善内容によって下記の作業が考えられます。

・造成工事
・給排水工事
・舗装工事
・フェンスなどの金物工事
・施設工事（駐輪場・遊具など）
・植栽工事　など、幅広い工種が発生します。

緑のある風景

ツバキ

ツバキ（椿）は古くから庭木として親しまれてきた日本原産の常緑樹です。光沢のある濃い緑の葉をもち、花の少ない早春に大輪の花を咲かせ、人々の目を楽しませてくれます。日本では室町時代より茶室に生ける花（茶花）として鑑賞され、江戸時代には沢山の品種が作られました。さてこのツバキ、昆虫の少ない早春に花を咲かせるので、鳥に受粉を担ってもらいます。『鳥媒花』といいます。ツバキを観察しているとメジロのつがいが甘い蜜を求めてひょっこりやって来るかもしれません。

（渡部隆昭:「アメニティ」2013.2号より）

5）植栽工事のポイント

樹木や構造物を撤去した後に、新たに植栽する樹木の位置を確認します。その場合、下記の確認が重要です。

・樹木を植える場所（植穴）に建物の基礎や配管など支障になるものがないか。
・生長していくにつれ、住居（住民）に影響はないか（日照・通行など）
・植栽する場所にコンクリートの塊など生育に支障をきたすものはないか

植物は、日々生長します。経年変化を考慮して施工しなければなりません。また、地上から見えない地中も生長しますので、設備などの日常管理に影響を及ぼさないことも考慮しなければなりません。

次に、植物材料です。一番良いのは実際の材料を見て、選定するのが良いのですが、費用や時間がかかります。そこで、実際の樹木の写真を見て確認することが通例です。植物材料を搬入後、植物を仮に配置して、一度イメージを見てもらうことも重要です。図面や写真だけではイメージが湧かないことがありますので、確認後、多少の配置換えを行うこともあります。

また、特に住居の窓の正面に樹木（約２ｍ以上）を配置する場合には、できる限りその住居の方に確認を取ってから植栽することが重要です。改善してもその住居の方の迷惑になってもいけません。

作業終了後には、どうしても図面と実物とのイメージの相違が出てくることがあります。その場合、管理組合、施工会社と協議・合意の上、植栽の配置換え・追加（補植）などを行うこともあります。その場合には発注金額にも変更が生じることがあります。

作業終了後には、植物に関しては維持管理が必要です。特に夏場の灌水作業は最重要です。完了後にその役割分担や、今後の維持管理（剪定・施肥・薬剤散布・除草など）についてコンサルタントや施工会社、植栽管理会社と計画を立てることが不可欠です。

このように、管理組合（住民）とコンサルタント、そして施工会社が共同で合意形成を作りあげていけば、より良いみどりの改善が継続され、安心して快適に暮らし続けるための屋外の住環境が形成されることでしょう。

バックホーによる植穴掘り

大型重機による抜根

緑のある風景

サクラ

サクラといえば、ソメイヨシノ（染井吉野）を指すということが多いと思います。皆さんのお住まいの所や近所にも、必ずと言って良いほど、ソメイヨシノが植えられていると思います。

ソメイヨシノは栽培種であり、原種であるエドヒガンとオオシマザクラの交配種であることが知られています。ソメイヨシノは接木（つぎき）で増殖され、すべて兄弟（姉妹）のクローン（遺伝子組成を同じくする生物集団）です。一斉に開花するので、気温の上昇に伴い桜前線にも利用されているという訳です。

ちなみに、「ソメイヨシノ 50 年説」ということが俗説？として広がっています。確かに古いソメイヨシノは傷ついて可愛そうな状態のものが多くあります。のびのびと育っているのを見ることはまれではないでしょうか。「昔は花もたくさんつけてきれいだった」というお話を伺うこともありますが、本当に 50 年が「寿命」なのでしょうか？

具合の良くないサクラ（ソメイヨシノ）は、生育している場所が狭かったり、建物や隣の木と近すぎたりして、のびのびと育っていません。生長が早い木なので、大きくなって枝が邪魔になった結果、剪定をして大きな傷が残り、そこから腐朽が入り、具合が悪くなるなどしています。また、周辺の舗装をやり直したり、配管工事などで掘り返したりして根を傷めていることもあります。50 年が寿命なのではなく、50 年の間に傷めてきたことが原因であることが往々にしてあります。最近はソメイヨシノは生命力があり、再生能力が強い木なのではないかとも言われてきています。

サクラが健全に生育できる環境を整えることが、思い出の樹として将来に渡って次世代に引き継いで行くことにつながると思います。

（間庭直行:「アメニティ」2013.4号より）

5. 目的に応じた見積依頼先の選定

植栽管理や改善工事の規模や目的に応じて、見積依頼先を選定することがポイントです。みどりを取り扱う仕事は「安ければ良い」という発想だけではうまく行きません。会社規模や実績、考え方などを総合的に判断することをおすすめします。

1）会社規模

造園会社には、従業員 100 名を超す会社から一人親方の会社までさまざまな会社があります。官庁を主体とする会社、民間を主体とする会社、屋上緑化等の特殊緑化を主体とする会社等に選別することもできます。

会社の規模だけで善し悪しを判断することはおすすめしませんが、ある程度のものさしにはなります。

2）マンションのみどりなどについての実績

経歴書で実績を確認します。経歴書にはマンションの規模、形態（高層、低層等）、場所、発注者名、請負金額、現在履行の有無等を記載してもらいましょう。

3）信用調査

建設業の許可を取得している造園会社であれば経営事項審査結果がインターネットなどで公表されていますので、経営状況を確認することができます。

4）地域性

造園会社の立地は現地から近いに越したことはありません。緊急な対応にも応じてくれるでしょうし、他の現場作業の合間に作業することも可能なので、何かと小回りが利きます。

5）見積の依頼方法

・管理の対象となる樹木や緑地の調査から管理計画の立案と実施までを依頼する方法
・あらかじめ作業の内容や数量を示す方法

小規模な場合を除き、造園会社の管理に対する考え方や内容がわかる前者の方法をおすすめします。

6）見積数

見積を依頼する造園会社の数は、緑地の規模や内容にもよりますが、3 社程度が適当でしょう。

7）現場説明

・管理の内容や意向を伝え、見積条件を示すための現場説明を行います。
・現場説明にあたっては、「外構（緑地）竣工図」を提示するのが一般的です。
・管理計画の立案、実施まで依頼する場合、「緑地調査報告書」、「年間維持管理計画書」と「見積書」の提出を求めることが一般的です。

※必要に応じて「緑地改善の提案」を求めるのもよいでしょう。

8）提出資料の検討

造園会社から提出された資料をもとに、「見積金額と仕様」、「支払条件」、「契約約款」などの内容を検討します。

9）見積書、提案書、ヒアリング等の評価方法

提出資料の検討結果をもとに、委託する造園会社を決定します。技術力や提案力、見積金額などを総合的に評価してください。ヒアリングを実施して最終的な判断をすることも一つの方法です。

緑のある風景

ハナミズキ

ハナミズキは北アメリカ原産の落葉樹で、名前はミズキの仲間で花が目立つことに由来します。
日本で広まったきっかけは、1912 年に当時の東京市長であった尾崎行雄がワシントン D.C. へ 6040 本の桜（ソメイヨシノ）を贈ったことへのお礼として、1915 年にハナミズキの白花種（原種）の苗木 40 本、1917 年にはピンクの苗木 12 本が送られたことによります。
第二次世界大戦中は、「敵国から贈られた木」として、そのほとんどが伐採されてしまいましたが、東京都立園芸高校や東京大学小石川植物園などに戦争の難を逃れた数本が、大木となって今でも生育しています。

（田丸敬三:「アメニティ」2013.6号より）

6. トラブルを防ぐ契約の方法

1）契約に必須の事項

契約のトラブルを防ぐために、次の事項について造園会社と確認をしてください。

- 管理内容・数量・回数
- 作業条件
- 特記事項
- 金額、支払方法
- 確認、検査方法
- 緊急対応等

2）仕様書の作成

作業仕様書を作成して、作業内容を明確にします。

3）契約内容の確認、契約の締結

万一のトラブルを防ぐため、契約内容を文書で確認し、契約書として取り交わすことが大切です。

長期の視点での管理

◆長期の管理計画

独立行政法人都市再生機構（UR）の集合分譲住宅は、1955 年以来全国で約 1,200 団地を数えます。多くの団地は完成後 20 ～ 30 年以上経過し、周辺の環境が大きく変化するとともに、居住者のライフスタイルやニーズも多様化しています。UR 団地に限らず分譲マンションでは、入居後の大きな変化に対応するため、建物、設備、屋外環境に関する改修（リニューアル）が必要です。建物、設備については、長期修繕計画を策定し、必要な費用の積立を行っています。しかし、屋外環境については、将来の変化を予測し計画を立てることが難しいこともあり、計画的なリニューアルを考えている管理組合は少ないようです。

高木となる樹木については生長の予測は可能で、密生した樹木の伐採や日当たりを改善するために大規模な剪定が必要となる時期、費用等を「長期みどりの管理計画」として作成し、実施することが環境維持、長期のコスト管理に有効です。

緑のある風景

サルスベリ

サルスベリは名前の由来にもなっているスベスベとした幹肌が特徴的なミソハギ科の落葉中高木です。中国原産で江戸時代に日本に伝来したと言われています。実際には名前のように猿が滑り落ちるということはありませんが、その幹肌を見れば「なるほど」と思うほど、スベスベとしています。

また百日紅（ヒャクジツコウ）という別名もあり、こちらは花が長く咲き続けることに由来し、暑さきびしい夏に約３カ月以上咲き続けます。

サルスベリは植栽スペースが十分に確保されている大規模な団地では、クスノキやケヤキといった大型の樹木に比べると存在感が薄いかもしれません。しかし、狭い空間や大きくなる樹木を植えにくい場所では、幹肌に特徴あるサルスベリは十分な存在感があります。さらに花の少ない夏季に花を咲かせ、緑一色になりがちな団地やマンションに鮮やかな赤やピンク、白といった彩りを添えてくれます。

梅雨が明け、暑さが本格的になる頃から花を咲かせるサルスベリは、暑さ厳しい夏に一服の清涼感を与えてくれます。緑陰を探す人の目にとまることは少ないかもしれませんが、暑さに負けず長い期間花を咲かせてくれるサルスベリの花を見つけてみませんか？

（久田友吾:「アメニティ」2013.8号より）

イチョウ

イチョウは中国原産の落葉高木であり、雌雄異株（オスとメスがあり）で雌（メス）の木に銀杏（ぎんなん）がなります。名前の由来は、葉の形をアヒルの足に見立てた中国語「鴨脚（イアチァオ）」が転化したというのが通説になっています。日本語では「公孫樹」と表記しています。

室町時代から日本各地で植えられるようになり、公園やお寺にも植えられている他、公害や病虫害にも強いことから街路樹としても多く利用され、日本で最も本数の多い樹種といわれています。団地の中では広場のシンボルツリーや並木状に植えられ、特徴的な風景を作りだしています。秋には黄色く黄葉して、団地の風景を彩ります。

イチョウは長寿であり、生長するとかなりの大木となって陽当たりを妨げたり、強剪定によってせっかくの樹形が損なわれたりすることがあるので、建物との関係や樹形に注意しながら剪定することが、イチョウの美しい樹形を楽しむコツです。

また、イチョウの葉や実には薬用効果のある成分が含まれる反面、アレルギー反応を引き起こす成分も含まれており、利用する際は十分な注意が必要です。また、イチョウの材は油分を含んでいるため水はけがよく、歪みが出にくいため、碁盤や将棋盤、カウンターの天板などに利用され、イチョウのまな板は高級品とされています。

（西山秀俊:「アメニティ」2013.10号より）

7. 確認検査の方法とコツ

確認検査には写真で確認する方法、書面で確認する方法、現地立会いで確認する方法があります。作業完了後、直ちに現地立会いによる確認検査を行うことが望ましいですが、時間的拘束を伴うので写真および書面検査が主流のようです。

1）写真による確認検査

①作業写真

・管理作業状況写真（作業前・中・後）
作業対象物の変化が確認できます。同位置、同角度から撮影してもらうことが重要です。
作業中の写真を確認することで、適正な機械・重機・工具等の使用状況も確認することができます。

②安全管理状況

・ヘルメット、安全帯等の使用状況
高中木剪定等の高所作業時はヘルメットの使用はもちろん、安全帯の使用が義務付けられています。墜落事故を未然に防ぐためにも確認する必要があります。

・作業帯の確保（バリケード等）の状況
作業箇所を明確にするための作業帯の確保は、居住者の作業範囲への立入を防ぎ、接触事故等を防ぎます。

・保安要員（ガードマン）の配置状況
公道部を使用する外周の生垣の刈込等の作業は、保安要員（ガードマン）の配置を必要とする場合があります。

③使用材料

・支柱材等の状態および形状寸法
・適正な薬剤の使用および濃度
・適正な肥料の使用
・適正な材料の使用状況　を確認します。

④発生材搬出状況

・荷台養生状況および過積載
発生材搬出の際の荷台へのシートやロープ等での確実な養生は、発生材の飛散防止となります。重量まで写真で確認することはできませんが、見た目で過積載の有無はある程度判断できます。

2）書面による確認検査

①作業記録

・作業日報
作業内容の記録を確認します。

・作業計画書
事前に提出された計画書に則り作業が行われているかを確認します。

②管理対象樹木の位置図、数量確認

・作業数量表
計画数量に対して実施数量が確実に行われているかを確認します。

・作業範囲図
計画作業範囲に対して実施作業範囲が正しいかを確認します。

緑のある風景

ドイツトウヒ

ドイツトウヒはヨーロッパ原産のマツ科の常緑針葉樹で円錐形をした高木です。針葉樹はチクチクした葉が特徴的です。ドイツにある黒の森（シュバルツバルト）はドイツトウヒを植林してできた森です。
中世以前から北ヨーロッパで冬も緑に茂っているドイツトウヒやモミの枝に造花やお菓子、小物、リンゴを飾り付けていました。農耕儀式の一つでしたが、キリスト教に取り込まれ、クリスマスツリーとして世界に広がったと言われています。寒い冬でも青々と茂っている枝葉は、生命力の表れとも言われています。日本には明治中期に伝来し、今ではクリスマスツリーとしてモミとともに人気があります。

（元村貴久子:「アメニティ」2013.12号より）

3）現地立会いによる確認検査

①剪定、刈込

・剪定強度にむらはないか、刈込高は均一かを確認します。

・切り残しはないか、枯枝・折れ枝はないか、剪定枝が樹上に残ってないかを確認します。

②除草、草刈

・刈込高は基準以上か、刈り残しがないか、集草は十分かを確認します。
（草が伸びてしまうので、作業の翌日行うのが望ましい）

③芝刈

・刈込高は基準以上か、十分にサッチ（刈りかすが堆積したもの）の除去が行われているかを確認します。
（草が伸びてしまうので、作業の翌日行うのが望ましい）

④薬剤散布、施肥等

・薬剤の希釈倍率は保たれているか、害虫は駆除されているか、肥料は適正に撒かれているかを確認します。

4）要望の伝え方、意見交換会

より良い管理を行うためには、委託先との円滑なコミュニケーションが必要となります。管理組合からの要望だけでなく委託業者からの意見も聞き入れて、お互いに納得した上で管理作業を行うことが大事です。

①現地での意見交換

具体的な各工種における要望や問題を伝えます。

現地で対象物を前にして、具体的数量を提示しながら要望とその理由を伝えます。

要望や理由の例

「2 号棟西側隣接の高木（クスノキ）の枝を 7 割程度透かして日照を呼び込みたい」

「1 号公園沿いの低木（ツツジ）が高くなりすぎ、見通しが利かず防犯上問題があるので、見通しが利くような高さまで刈り込んでほしい」

②定例の意見交換会

■委託会社からの作業報告

・問題点の報告と改善提案
状態、原因、緊急性の有無、改善（方法・時期）に伴う費用の概算を報告してもらいます。

・作業内容の必要性、意味
作業頻度および作業配分の見直しを検討してもらいます。

■管理組合（居住者）からの要望伝達

・要望理由、要望内容（作業内容、作業頻度、作業時間、作業態度、モラル等）

緑のある風景

メタセコイア

メタセコイアはスギ科の落葉性の針葉樹で、秋には橙赤色に紅葉し、生長すると樹高が 30 mを超えるものもあります。和名ではアケボノスギと名付けられています。
メタセコイアは新生代第三紀（6,500 万年前～ 200 万年前）に栄えていた植物で、日本でも 300 万年から 100 万年前頃まではたくさん自生していたようです。近年、化石しか発見されていなかったため、絶滅種とされていましたが、1946 年に中国の四川省で現存種が発見され「生きた化石」として一躍有名になりました。そして、1949 年に種子から育苗していたアメリカの博士から天皇に献呈されたものが日本に入ってメタセコイア第 1 号になり、その翌年には 100 本の苗木がアメリカから送られ、それらの木から挿し木された苗が日本各地に広がり、学校等に移植されて今日に至っています。

（西山秀俊:「アメニティ」2014.2号より）

ハナカイドウ

ハナカイドウはバラ科、リンゴ属の落葉樹で春にはリンゴ属特有のきれいな花を咲かせます。漢字では「海棠」と書き、別名は「睡花」と言います。これは、中国唐の玄宗皇帝が楊貴妃の酔後の姿を賞し「海棠の眠りまだ足らずか」といった故事により、佳人の容姿を例える時に使われるようになったということです。
ハナカイドウの花は、長めの花殻を伸ばして紅色の花芽が樹木全体を覆い、垂れ下がるように咲きます。花芽が開くと薄紅色になり、ほとんどは八重咲きで一部に一重が混じり、半開きに咲く上品で可憐な花です。単木でも列植でも見栄えのする木ですが、日当たりを好み半日陰では花のつきが極端に悪くなります。剪定をしないでおくと花付きが悪くなり、剪定も切り方を間違えるとほとんど咲かなくなります。八重が多く、実はあまり成らないため、花の咲かないハナカイドウはあまりにもかわいそう、花だけが命です。

（田丸敬三:「アメニティ」2014.4号より）

8. 助成金の活用

自治体は大気汚染およびヒートアイランド現象の緩和、地球温暖化の防止など、良好な生活環境の形成を目的としてさまざまな助成制度を導入しています。お住まいの地域の自治体にどのような支援制度があるか相談して、有効に活用してください。代表的な制度を身近なものから順にご紹介すると､次のようなものがあります。

1）みどりを増やす助成制度

①生垣およびフェンス緑化助成制度

既存のブロック塀等を壊して生垣を整備する場合や新たに生垣の整備を行う場合、また既存のフェンスにつる植物で緑化する場合に整備費用の一定の割合を助成する制度です。この制度を利用して、マンション外周のみどりを整備することができます。最も多くの自治体で制度化されています。

②住民による緑化活動の助成

道路に面する花壇など、公益性が高いと考えられる場所の緑化や花壇などの整備活動に対し、花苗や活動費の一部を助成する制度です。

③屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化助成制度

緑化整備費の一部を自治体が補助したり、苗木を配布したりする制度です。

2）みどりの管理を支援する制度

①保存樹木、保存林に対する助成

お住まいの自治体の条例に基づいて、保存樹木や保存樹林として指定された樹木や樹林の管理費の一部を助成する制度です。

②緑地の管理を支援する制度（市民緑地制度）

緑地の管理を支援する制度として、市民緑地制度というものがあります。この制度は公開性または視認性のある場所が条件となりますが、緑地管理費用の軽減や税制面での優遇措置を受けることができます。

3）留意点

ここで紹介した事例はお住まいの地域の自治体により、制度の種類や内容が異なりますので、担当窓口とよく相談して制度を活用してください。

緑のある風景

ナナカマド

ナナカマドは、バラ科の落葉高木で本来は高山性の植物ですが、平地でも問題なく育ちます。深紅に染まる紅葉や果実が美しいのが特徴です。北海道や東北地方では街路樹としてよく植えられています。名前の由来ですが、材質が堅く木炭の原木としても活用されるように､「七度竈（かまど）にくべても燃え切らずに残る」や､「炭にするには七度焼かなければならない」等、諸説あります。
高さは７～10m ほどにもなり、夏に白い花を咲かせ、秋頃に実る実は鳥たちも喜んで啄（ついば）みます。果実酒にも利用されます。
お手入れですが、自然樹形が最も適しているので、できるだけ自然に近い樹形をキープします。剪定は落葉してから行いますが､枝の傷口がふさがりにくい性質なので､太い枝を切った場合は切り口にゆ合剤などを塗ります。比較的丈夫ですが、平地や暖地では病害虫がつきやすくなる場合があるので、定期的に薬剤散布をして予防することをおすすめします。病気はうどんこ病など、害虫はアブラムシ、やカミキリムシの幼虫などの発生が見られます。

（田丸敬三:「アメニティ」2014.12号より）

クロガネモチ

クロガネモチは、関東より南の比較的温暖な地域に分布する常緑高木です。寒さには少し弱いですが、潮風や大気汚染に耐性があり、団地や公園、街路樹などに使われています。また、火災を防ぐために家の周りに植えた「火かぶせ木」の一つでもあります。生長が遅いものの樹形は自然に整いやすく、樹高は 10 ～ 15 m程になり、どっしりとした樹形は風格があります。葉は卵形で濃緑色、やや厚くて革のような質感があり、表面はツヤツヤとした光沢があります。
名前は、葉の根元の葉柄と新しい幼枝が紫黒色を帯びること、葉が乾くと黒鉄（くろがね）色になるモチノキの仲間ということに由来します。また､名前に「カネモチ」という言葉が入っていることから、縁起木としても好まれています。花は５月～６月に淡い紫色がかった小さなものであまり目立ちませんが、花後に５ミリほどの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実をつけた姿は非常に美しく、冬までその姿を楽しむことができます。
なお、クロガネモチはオスの木とメスの木があり、オスの木には花は咲いても実はならず、メスの木も近くにオスの木がないと結実しません。

（西山秀俊:「アメニティ」2014.10号より）

■造園新領域開発共同研究会について

造園新領域開発共同研究会は、造園分野として新たに取り組むべき領域は何かを探りつつ、都市環境の改善・保全を通じて良質な地球環境づくりに造園分野として貢献することを目的として設置された共同研究会です。

■マンションのみどり研究部会について

マンションのみどり研究部会では、マンションなどの集合住宅のみどりをより良い状態で維持・管理するために、ハード・ソフトの両面から研究活動・技術開発を行っています。

現在は、マンションなどの集合住宅のみどりを対象とした、みどりの改善に関する総合的な取り組みを推進するとともに、マンションのみどりの改善に関するセミナーを定期的に開催しています。

■執筆者

会社名	担　当	所在地　電話番号	ホームページ
アゴラ造園 株式会社	水上　浩二	東京都練馬区高松 6-10-14 03-3997-2300	http://www.agora-zoen.co.jp
イビデングリーンテック　株式会社	久田　友吾	東京都港区三田 3-14-10 03-5419-6910	http://www.ibiden-greentec.co.jp
株式会社 大場造園	尾澤　　修	東京都杉並区永福 2-47-12 03-3321-8688	http://www.obazouen.co.jp
株式会社 グラック	西山　秀俊	東京都中央区東日本橋 3-6-17 03-3249-3010	http://www.glac.co.jp
株式会社 昭和造園	間庭　直行	東京都杉並区和泉 4-42-33 03-3315-9796	http://www.showa-zoen.co.jp
有限会社 城北造園	元村　貴久子	東京都練馬区向山 2-8-7 03-3998-0900	http://johoku-zoen.com
天竜造園建設 株式会社	内山　晴芳	静岡県浜松市東区材木町 38 番地 053-421-1180	http://www.tenryu-landscape.com
東光園緑化 株式会社	田丸　敬三	東京都渋谷区恵比寿南 3-7-5 03-3719-4611	http://www.tokoen.jp
株式会社 柳島寿々喜園	渡辺　隆昭	東京都墨田区業平 5-12-16 03-3625-7428	http://www.yanagishima.co.jp
公益財団法人 都市緑化機構	鳥越　昭彦	東京都千代田区神田神保町 3-2-4 田村ビル 2F 03-5216-7191	http://urbangreen.or.jp

（平成27年12月）

■問い合せ先

公益財団法人 都市緑化機構
東京都千代田区神田神保町 3-2-4 田村ビル 2 階
TEL:03-5216-7191（代表）　FAX:03-5216-7195
midori@urbangreen.or.jp